

平成 24 年度 第 5 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

1 開催日時

平成 24 年 11 月 2 日（金） 9：30～11：30

2 開催場所

札幌市役所 12 階 5 号会議室

3 出席者

(1) 委員

蟹江委員長、岡田委員、山下委員、山本委員

(2) 札幌市職員

財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局契約管理課長、財政局工事契約担当課長、財政局技術管理課長、財政局建築設備検査担当課長、交通局総務課長、水道局総務課長、病院局経営企画課長 他 8 名

4 次第

(1) 開会

(2) 委員長あいさつ

(3) 報告事項

(4) 抽出工事等の決定・審議

(5) その他

(6) 閉会

5 審議概要

(1) 報告事項

○ 工事等発注状況について（平成 24 年度 9 月末）

【蟹江委員長】 資料「工事の競争入札と随意契約の発注状況」について、随意契約の件数が大幅に減少しているが、この背景は何か。

【札幌市】 マンホールの修繕工事に関し、従前、前年度に調査し、翌年度に修繕工事を実施していたところであるが、今年度より業務の見直しを図り、調査と修繕を包括して役務発注に切り替えたことによるものである。

【山下委員】 包括して発注した場合、契約金額はどうか。

【札幌市】 出来高払いとなる。

【岡田委員】 資料「平均入札参加業者数の状況」について、工事、業務とも参加業者数は増加傾向にある。これは、新規の業者が増加しているのか、それとも既存の業者が参加回数を増やしているのか。

【札幌市】 細かいデータはないが、競争の激化に伴い、受注機会の確保のため、既存の業者が応札回数を増やしている印象を受ける。

【蟹江委員長】 登録業者数の推移はどうか。あまり変わっていないのであれば、入札参加者数の増加傾向からみて、参加の回数が増えていると考えられる。

【札幌市】 全体の登録業者数の推移としては微減。発注量とのバランスとしては、依然として登録業者数は多い状況にあると思われる。

【岡田委員】 競争激化により、望ましくない業者が脱落するのであればよいが、既存の業者間での競争よりも、新規業者が入ってくる方が望ましいと思われる。成績重視型の問題に関連するが、既存の成績優良な業者が有利になるのであれば、新規の参入が困難になるのではないか。

【札幌市】 平成 23 年度の提言を受け、成績重視の 2 年型を試行中。新規業者の参入をしやすくするという観点を含め、結果を注視し、当委員会でお示ししていきたい。

【山本委員】 資料「くじ引き入札の発生割合の推移」について、業務では、平成 22 年度から平成 23 年度にかけてくじ引き発生割合が急増している。この要因は何か。

【札幌市】 業務においては、平成 21 年度までは最低制限価格の率は 70% の定率だったところ、平成 22 年度より積上げ方式に変更している。平成 23 年度に急増した要因としては、業者の積算能力の向上、また、情報開示が進んだことが考えられる。

【蟹江委員長】 制度の変更、情報公開、積算技術の向上等が加味されてこのような推移となる。今後も、くじ引き入札の発生割合は増加傾向となり、最低制限価格でのくじ引きも増えると推測される。

【蟹江委員長】 測量、地質調査に関しては、ともに最低制限価格でのくじ引き発生割合は高いが、平均失格者数を比較すると、地質調査がより多くなっている。

【札幌市】 地質調査は発注件数が少なく、業者の実績も乏しいことから、積算が困難である。今後は、精度が向上してくると考えられる。

【山下委員】 従前、入札制度の趣旨としては金額の多寡であったが、最低制限価格での入札が増えている現状では、成績重視のような、別の要因について選ぶという趣旨に変わってくるかもしれない。

【札幌市】 本市としても課題として捉えている。最低制限価格は本来、履行に支障をきたさない最低限の価格として設定しているものであるが、厳しい経済状況の中、競争が激化している現状では、受注の機会を確保するため、どうしても最低制限価格に集中し、その結果としてくじ引きが多発してしまう。解消するのは困難であるが、総合評価や成績重視を取り入れながら入札制度を組み立てている。

【山本委員】 資料「失格入札の状況」について、業務では、全業種の失格発生率 65.11% を示している。この数字に対して、市ではどのような考えを持っているか。

【札幌市】 本市が要求する内容を勘違いしているケースもあり、この発生率に対し、特別な評価をしていることはない。

【蟹江委員長】 失格発生率が増えるということは、設定している価格の妥当性が問われることにつながる。価格を安く設定すれば、より安く調達できるという可能性もあり、価格の妥当性を説明する意味では、失格発生率が高いことは良くない傾向と考える。

【札幌市】 開札した結果、全者失格し不調となる場合がある。そのような場合、設計書上問題がなかったかどうか等の調査を行い、検証している。

【蟹江委員長】 価格の妥当性の説明として、検証の有無は問われるところであり、確実に実施される必要がある。

【札幌市】 平均入札参加者数の数値から比較して、多くの業者は有効な範囲内で入札しており、価格の妥当性については、現状、大きな問題はないと考える。ただ、不調の場合には確実に積算のチェックは行っているところである。また、平成 23 年度と比較すると今年度は減少傾向にある。

【蟹江委員長】 地質調査については、平均 41 者の入札に対し、16 者が失格というのは深刻な数値であると考え。それだけ過当競争なのか。

【札幌市】 地質調査は発注件数が少なく、積算の条件の見方により金額が大きく異なる業種である。今後、情報公開が進むことにより、精度が上がり、失格者も減少してくると想定される。

(2) 抽出工事等の決定・審議

○ 抽出工事等の決定について

岡田委員により選定された 3 案件について、審議を行うことを決定した。

○ 新川公園団地 14 号線路線測量について

【岡田委員】 くじ引き複数落札制限について、開札順により落札できる案件が変わってくる。業者にとって落札したい案件、金額的なものがあると思われる。

【札幌市】 開札は工事番号順に行うことを事前に告知しており、その工事番号は内部の事務処理の順番に付番したもので、作為的なものではない。金額順等の開札も検討したが、恣意性を働かせないために、このような手法を採用したところである。

【蟹江委員長】 業者の立場では、プライオリティーは開札順に決まり、先に金額の大きい案件から開札された方がよいが、その場合、やはり問題点が大きいということか。

【札幌市】 金額の多寡を示唆していることになるとと思われる。

○ 手稲中学校改築工事について

【山下委員】 当該工事の全参加者は、代表者は市内業者であるという条件を満たしているか。

【札幌市】 満たしている。失格は失格判断基準によるものである。

【蟹江委員長】 調査基準価格における現場管理費や一般管理費の改正の趣旨は、施

工管理をきちんと行い、品質の向上を図るという意図か。

【札幌市】 そういった観点も含まれたものである。

【蟹江委員長】 近年、品質や安全に加えて、環境対策といった配慮を求められるようになってきている。そのような経費が現場管理費や一般管理費で手当てされるのであれば、説明として成り立つと考えられる。品質を管理するという、その品質の中に環境や安全が含まれているということである。

【札幌市】 全国的にも現場管理費や一般管理費の嵩上げが要望されているところであり、本市は比較的高い基準を設定している。

【岡田委員】 特定 JV の代表者の市内要件に関し、実際に市内業者が落札した件数については、もう何年か推移を見る必要がある。前年度との比較では割合が増えているが、件数自体は1件減である。

【札幌市】 あくまでも結果であり、要件を付すことと連動しているとは限らないが、市内業者の育成といった観点も含めて、今年度より可能なものについては要件を付しているところである。

【蟹江委員長】 特定 JV の代表者の市内要件について、要件を付する案件の割合を増やしていく考えか。

【札幌市】 可能な案件については、極力、市内要件を付していきたいと考える。ただ、競争性を阻害されるような場合には付すことはできない。また、工事の難易度にもよるため、その年度の工事内容により状況が異なる。

○ 北栄地区災害時重要管路耐震化工事その2について

【蟹江委員長】 総合評価落札方式全体の傾向として、入札参加者数が少ない。競争性の観点からは参加者が多い方がよいが、自社の技術評価の程度をわかっていて参加をあきらめることも想定されることから、必ずしも少ないことが悪い状況というわけではない。また、入札参加状況から、落札件数の多い業者がいる一方、落札できなかった業者が自然と参加してこなくなる傾向がうかがえる。成績優良な業者が、技術力や地域貢献を評価されることで落札できる状況にあり、これは、制度の意図しているところだと考えられる。ただ、逆転落札で差がついた評価項目において、技術評価重視型で福祉除雪事業への協力で差がついた割合が多いことに関しては、技術力の評価と関係があることなのか疑問を感じる。地域貢献重視型であれば構わないが、項目を除くような議論があってもよく、データを取りためて、重視する項目と見直すべき項目を検討した方がよい。

【岡田委員】 配点や結果は公表されているか。

【札幌市】 インターネットで全者について公開している。

【蟹江委員長】 そのことが参加業者数の減少、固定化の要因と考えられる。積算の精度が向上している中で、他社の点数を考慮したうえで戦略的に入札してくるものと思われる。

【札幌市】 技術力のある業者を選べるという一方で、参加者が限定されるという課

題がある。来年度に向けて、評価項目等の見直しを進めていきたい。

【蟹江委員長】 引き続きお願いしたい。

○ 全体を通して

【蟹江委員長】 測量が過当競争の印象を受ける。くじ引き複数落札の制限を導入したが、参加しても落札できなかった業者数はどれくらいか。

【札幌市】 今年度の実績として、市内、市外業者含め、A等級では、登録業者 153 者のうち、参加業者数は 34 者、うち落札件数ゼロは 10 者。B等級では、登録業者 95 者のうち、参加業者数は 56 者、うち落札件数ゼロは 2 者。C等級では、登録業者 124 者のうち、参加業者数は 43 者、うち落札件数ゼロは 15 者という状況である。

【蟹江委員長】 B等級では落札件数ゼロはきわめて少ないが、A、C等級では3分の1程度が落札できていない状況である。

(3) その他

次回の抽出工事は蟹江委員長が選定することを決定した。

以上